

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100147		
法人名	株式会社ハーティ盛岡		
事業所名	グループホーム浅岸静福園 (西棟)		
所在地	〒020-0801 岩手県盛岡市浅岸字橋場16-2		
自己評価作成日	令和2年7月7日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者が有する能力に応じて、各種のお手伝い・ゲーム遊び・レクリエーション・懐メロの合唱などを通じて介護職員との日常の触れ合いを大切に、穏やかで和やかな日常生活をお送り戴くように努めております。  
 ・健康管理の面では、高齢や認知症状の進行に伴い通院が困難になっておりますので、緊急時の往診や入院対応も含めて、協力病院である中津川病院からの訪問診療を全てのご入居者が受診されておられます。また、「訪問看護ステーションなかつがわ」と委託契約を締結し、週一回の訪問看護により、出来るだけ施設での穏やかな生活を長くお送り戴くように、ご入居者の体調管理には特に留意しております。  
 ・楽しみにしておられる三度のお食事は、季節感を少しでも味わって戴くために、その時期の旬の材料を取り入れたり、節句毎等の行事食を工夫しております。調理方法や食事介助も咀嚼や嚥下の状態に併せて、無理なく味わって戴けるように努めております。  
 ・毎月の各棟ユニット会議等で、職員間の意思疎通や内部研修の機会を設け職員の資質向上を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営理念で目指す「優しい介護」の実践を心掛けて日常のケアに当たっている。特に協力病院との医療連携体制が確立され、毎月の定期的な訪問診療がなされているほか、毎週の看護師による訪問も行われており、医療面での安心感が高い。運営推進会議も定期に開催され、特に報告事項として毎回、事業所内の身体拘束適正化委員会やヒヤリハット事例の内容を詳しく説明し、運営の透明化を図っている。また、ご家族には毎月の状況報告として、利用者毎の医療記録や担当者からの伝言とカラー写真を配したお便りを送付し、丁寧に様子を伝えている。全体的に利用者の重度化が進み、思いや意向の把握や外出機会の確保などの面で難しい対応が多くなっているが、さらに外部の意見や協力を得る中から改善に繋げていこうという意欲が感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境での自立支援、安心と信頼の提供を重点とし、地域交流も取り入れるように努力しながら「全てのご入居者様を、職員の両親・祖父母と思ふ優しい介護」の理念を念頭に日々のケアに取り組んでおります。	平成22年の開設以来の理念である「全てのご入居者様を、職員の両親・祖父母と思ふ優しい介護を目指します」をホール内にも掲示し、職員間の浸透を図っている。職員は、理念を実践すべく優しい介護を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との会話等や運営推進会議に於いてホーム内における各種行事や避難訓練等に近隣の住民の方々へのお誘いや相談来訪等のお知らせを行う等地域の皆様と交流を図る努力をしております。	地元の町内会に加入しており回覧板も回ってくる。ホームの行事である夕涼み会には近隣住民も参加して楽しまれている。また、現在はコロナ過で休止しているが、傾聴ボランティアが時々来訪している。近所には幼稚園もあり、今後は子ども達との交流も検討したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実績を積み上げている段階にあり、夕涼み会等、地域の方々を招いての催しの開催を今後とも実施して参ります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、家族会会長、自治会長、元浅岸地区街づくり委員会会長、地域包括支援センター、協力医療機関であります中津川病院職員等の各委員から貴重なご意見を頂戴し、ケアに活かしております。	地域関係者として自治会長や地元の学識経験者が参加している。民生委員の参加も今後は検討していくとしている。毎回、身体拘束適正化委員会やヒヤリハット報告の内容を詳しく報告、議論されている。委員からは夜間想定避難訓練実施の提案があり、実践に結びついている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	盛岡市担当課は、ご家族からの相談やその他の課題解決に向け直接出向いてご指導を頂くことを含め、その都度密に連絡を取り、協力関係の構築に努めております。	市役所の担当課(介護保険課)には、運営推進会議の報告書を2か月に1回程度訪問して担当者とは面談するよう心掛けている。災害用の自家発電装置設置に際しても、市との連携を深め実現した。地域包括支援センター主催の地域ケア会議にも毎回出席して、地域での連携強化に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム目前に主要地方道が通り、交通量が多く、自由にホーム外に出ることは交通事故等に繋がる危険性が大きい為、玄関内側をカード式の自動ドアとしております。外出希望がある際は、その都度対応しております。身体拘束の廃止は、言葉での拘束を含めてホーム内外の研修・施設長講話や資料等で理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めております。施設内において「静福園身体拘束等の適正化検討委員会」を2ヶ月に1回開催しております。	身体拘束等の適正化検討委員会は2ヵ月毎に開催され、内容は詳しく運営推進会議に報告されている。ホームが面する主要地方道は交通量が多く危険であるため、玄関の出入りはカード式の自動ドアとなっている。家族の了解を得て転倒防止用のベッドセンサーを全体で6人に使用している。職員によるスピーチロックも稀にあり、その都度注意をしながら改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉や態度によるものも含めて虐待はありません。各棟のユニット会議や朝の引継ぎ時に、施設長からの話や内部研修・資料等でその理解が図れるよう努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自が資料等で学ぶ機会を持つてはありますが、活用するケースは現状ではありません。(ご家族や社会福祉士が成年後見人になっている例はあります。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び料金改定時等には事前に連絡、説明を行い、ご理解頂いた上で手続きを進めていくよう努めております。また、その後も不明な点等があれば、いつでもお話頂けるようにその都度お伝えしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご入居者やご家族が意見を出していただけるような関係作りに努めることを前提とし、意見箱の設置やご家族面会時の情報交流により、ご意見・ご希望を頂戴し、できる限り運営に反映させるよう努力しております。	家族には毎月、利用者毎の医療記録や担当職員からの伝言と写真を掲載したお便りを送付して生活の様子を伝えている。来訪時や家族会総会等の機会に意見や要望を伺っている。今後は家族アンケートも検討してみたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や朝の引継ぎ時に施設長が両棟に入り、諸伝達事項の周知や職員の意見を聴取並びにそれを反映させる場としての機会を設けております。	月1回のユニット会議や毎朝の引継ぎ時等に職員から意見が出されている。個人面談については、この3月に初めて実施した。この際、施設長が面談相手となるより各ユニットの管理者が相手となったほうがベターと思われるので改善したいとしている。	

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(兼施設長)は介護シフトには入っておりませんが、日勤をしながら、職員の勤務状況を把握しております。また、各職員の勤務状況を昇給等に反映するよう努めております。又、介護支援専門員業務を兼務し、各棟の介護計画作成担当者の指導を行い、又自らも介護計画作成にあたっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得時(試験等)の勤務調整や必要経費助成等を行っております。外部で開催される各種研修への参加があった場合は、毎月のユニット会議で伝達研修の機会を設け、職員のケアに対する資質向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃から交流のあるグループホームと情報交換を行っております。また、それぞれの困難事例や運営等に関して相談を行い、日々のサービスへの向上へとつなげております。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時も含めて、その後もご本人とご家族がどのようなことで困っているのか、それを解決するためにどのようなことを必要としているのか密なコミュニケーションを図り、関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前及びその後の面談の中で、ご家族それぞれの不安に思っておられることやご要望を傾聴し、関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向を伺った上で「その時」必要なものを検討し、適切なサービス利用への対応を行っております。ご本人・ご家族のご意向等により、他のサービス利用につながったケースもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居の初期段階から日々の生活を通し、ご本人のできることに、できないことを見極め、できることへの働きかけを行い、ご本人の役割、居場所づくりに努めております。介護しているという感覚ではなく、暮らしの中で共に支え合うという意識でご支援を行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や行事の際、又は電話や個人だよりにてご入居者の情報を共有し、ご家族と一緒にご本人を支援していく関係づくりに努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙やお電話にて、これまでの関係が引き続き図れるようご支援しております。また、ご家族や遠方からのお客様が来園される場合もあり、その時間を楽しく過ごして頂けるよう努力しております。(記念写真もお撮りしております。)	ご家族とともに近所の知人が面会に来る方もいる。お盆などには家族が実家にお連れすることもある。理容は近所の理容師さんが来訪してくれ馴染みとなっている。全体に重度化しており、買物等もなかなか行けなくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースではご入居者同士の関係を大事にしながら、必要に応じ職員も関わることで、その場の雰囲気づくりを行っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された方のご家族等とは、電話にてその後の様子をお聞きし、病状回復の把握及び再入居希望の有無等を聴取しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の希望、嗜好等把握するように努めております。ご本人からの確認が困難な場合は、ご家族の協力もいただきながら意向の把握に努めております。	介護度の重度化により、思いや意向を言葉で表現できる方は5人程度であり、大半の利用者については、その表情や仕草などから、職員が読み取ってケアにあたるよう心掛けている。家族からの意向等の把握も大事であり、家族アンケートも検討したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の生活等の把握、並びにご家族面会時の情報交換を通し、これまでの生活歴等の把握に努めております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや心身状態等を申し送りや日々の記録、連絡・引継ぎ帳を活用し、現状の把握に努めております。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議で実施するショートカンファレンスにて評価を行うほか、ご入居者本人、ご家族の意見や要望を伺い、3ヶ月～6ヶ月毎にケース検討会を開催し、施設長(介護支援専門員)、計画作成担当者(介護支援専門員を含む)と職員間で協議・検討した上で介護計画を作成しております。	ケアプランの作成は、ケアマネがアセスメントをもとに原案を作成し、仮プランで2ヵ月程度の介護の実践を経て、その状況を踏まえて全員でモニタリングを行い、家族の同意を得て決定している。プランの見直しはモニタリングをもとに3ヵ月毎としており、あまり変化のない場合は最長6ヵ月毎となっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等を時系列の記録と介護計画に沿った評価の記録に記入し、ケアのあり方や計画の見直しに活用し、情報共有できるように努めております。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から、各ご入居者の生活の状況を確認してご支援が画一的にならないよう、個人々の状況に合ったご支援を心がけております。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域の自治会長や元街づくり推進会長に参加して頂き、地域資源に関する情報を得られるように伺いながら、豊かな暮らしが送れるよう努めております。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である中津川病院訪問診療は現在9名のご入居者が受診されております。訪問診療時には施設長や職員が、医師にご入居者の日々の状態をお伝えし、適切な診療を受けられるようにサポートしております。	近くにある協力病院を利用者全員がかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を受けている。緊急時にはすぐに対応してくれており安心感がある。また、同病院系列の訪問看護ステーションから、週1回看護師が訪れ、医療連携が良く取られている。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「訪問看護ステーションなかつがわ」から毎週ご入居者の状況把握のため訪問して頂き、適切なアドバイスをいただいております。ご入居者の体調や健康に関する相談など24時間の連携体制が整っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	令和元年度2名、2年度も3名の方が入院されております。入院中におきましては、施設長及び管理者が病院に行き、ご本人の容態把握やご家族への連絡を行っております。入退院時につきましても、施設長及び管理者が病院関係者と病状を含めて情報交換や相談を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族へのご説明ではご理解を頂いております。また、看取りの時期になりました場合は、看取りの対応について具体的な方向性をその都度ご家族を交えて中津川病院及び訪問看護ステーションなかつがわと話し合っております。	重度化や看取りについての家族等への説明は入居時に行い、利用者や家族の了解を得ている。協力病院は、緊急時の入院のほか、看取りへの協力対応も十分できる状況にあり、今後は本人や家族の意向に沿いながら看取りの取り組みを進める方向で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域を管轄する消防署(盛岡中央消防署山岸出張所)のご協力を頂き、消防訓練(夜間及び夜間対応を含め)及び心肺蘇生法・AED使用法、応急手当、初期対応の訓練を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において地域代表の方との情報交換や通報訓練、避難訓練等、夜間を想定しての訓練を実施し、職員一同災害に対する意識を高め、緊急時における対応が速やかに行えるよう努めております。	市のハザードマップでは浸水予想地域とはされていないが、土砂災害危険地域内に位置している。避難先が地元の小学校に指定されているが、距離が遠いことなどから他所への避難も今後検討していきたいとしている。消防署立会いで夜間想定避難訓練を実施しているが、少ない職員で全員を避難させることに正直不安を感じているとしている。	夜間想定訓練を積極的に行っており高く評価できる。夜勤2人の体制でどれだけの誘導が可能かをしっかり検討し、近隣住民の協力者を募るなどの取り組みも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての敬意と尊厳の保持を念頭に言葉かけや対応に努めております。朝・夕の申し送りやユニット会議の機会を活用し、職員間でお互いに振り返りを行いながら適切な対応ができるよう努めております。	オムツ交換時は必ずカーテンで外から見えないよう配慮したり、トイレ誘導の際の声掛けでもさりげない言葉かけとするようにしている。着替えの際にも、周囲から見えないよう配慮するなど、プライバシーの確保に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に沿いながら過ごして頂けるよう努めております。自己決定することが困難なご入居者もいらっしゃると思いますが、日頃の声掛けも「～しませんか」と決定をご本人に促すよう意識し、ご支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活を通し、全ての要望を満たすことは困難ではございますが、ご入居者のペースで過ごせるように極力努めております。ご自身では、要望等をお話しすることが困難な方もいらっしゃいますが、ご本人の表情等からその心情を察し、ご希望に添えることを心掛けて対応を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	車椅子の方は洗面所の鏡の前までお連れし、整髪等の支援を行っております。男性入居者には髭剃り等の支援を行い、歩行可能な方へは、襟元を正すなどの身だしなみの支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を多く取り入れた献立や行事食を取り入れ、調理前の野菜等に触れて頂いたり、皮むき等の下処理を職員と一緒にさせて頂く等、五感で楽しんでもらえるように工夫しております。	当日の担当職員が献立を決め調理も行っている。食材は地域のスーパーからが主であるが、近所や家族からの差入れもある。利用者の手伝いは簡単な下ごしらえ程度となっている。敬老会などでは寿司も提供し楽しまれている。家族が外食に連れて行く方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態に応じた調理形態にて提供し、摂取量は毎回記録に残し、摂取が進まない場合は無理強いせず、その方の嗜好を考慮した食品を提供する等で補い、一日のトータルで必要摂取量をお取り頂くよう努めております。また、月に2回程度、体重測定を行い、食事量を調整しております。また、塩分摂取にも配慮し、塩分濃度測定器を利用しております。		



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の来訪により歯科医師や歯科衛生士から口腔ケア等についてご指導を頂き、毎食後の口腔ケアを実施しております。その方の状況に応じて、歯ブラシやスポンジブラシを使用して口腔内の清潔保持に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄記録の間隔やご本人の言動を観察しながら必要な方へはトイレ誘導の声掛けを行い、トイレでの排泄支援に努めております。現在、おむつ使用者が6名、リハビリパン使用者が3名となり、おむつ使用者で、座位保持が可能な4名は、状況を見ながらトイレを使用しております。	重度化の傾向にあり、全体でオムツ使用が10人、リハビリパンツ使用が8人であり、布パンツで自立の方はいない。排泄チェック表をもとにトイレ誘導するが、ほとんどの方が車椅子利用であり、便座への移動、移乗、排泄の一連の行為は介助している。時には職員2名介助にて行っている。失禁もあるが、優しく声掛けをして、すぐに清拭して清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行い、医師処方による下剤などの使用については、訪問看護師指示のもと個別に対応しております。便秘予防の為、毎日バナナ及びヨーグルトを10時のおやつ時に提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午前、午後と入浴できるよう準備を整え、体調をみながら可能な限り、ご本人の意向に沿った時間での入浴が可能となるよう努めております。	週2回の入浴を基本としているが、失禁等の場合は随時シャワー浴で対応している。入浴を嫌がる方がいるが、いろいろ工夫して対応している。重度化に対応して入浴用ストレッチャーも導入しているが、一般浴槽のため、複数の職員で介助に当たるなど苦勞している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や疲労等の状況に応じて、適切な休息を取り入れております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局のご協力を戴き、ご入居者個々に分包していただいております。服薬時には職員同士が声を掛け合い確認をしております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調や気分を考慮した上で、洗濯物たみ等でその方の力を引き出せるようご支援しております。天気の良い日には、外気浴等を行い、ご入居者の気分転換が図れる機会を設けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方が少なくなっているのが現状であります。お声掛けで、天気が良い日は駐車場の散歩や花壇への水やり、鑑賞等、気分転換のための外出の時間を設けております。	外出の希望を出される方が少なくなっているが、近所の神社まで歩いて出掛ける方や園庭に出る外気浴も行っている方もいる。車いす利用でのトイレの対応が大変なために、ドライブにもなかなか行けない状況にある。ご家族が墓参りや実家に連れ出してくれることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針として現在、現金を所持している方はおりませんが、現金を所持されておられますも、使用する機会がないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自ら電話をかける入居者はおりません。ご家族から電話がきた時には、本人にお渡しし、職員介助のもと、お話をさせて頂く事もあります。年賀状は、スタンプを押したり、シールを貼る等の作業は職員と一緒に手掛け、お名前や一筆は可能な方はご本人に書いて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール壁面等に装飾を行っております。また、状況に応じた環境整備(温度、湿度、照明等)に配慮しております。音や光に敏感なご入居者がいらっしゃいますので、ご本人の表情や言動を観察しながら、対応をしております。	東棟と西棟それぞれにホールがあり、高い天井から光が差し込み、開放感がある。ホールにはソファーやテーブルが配置され利用者はゆっくりと寛いでいる。壁面には利用者や職員が手作りした七夕飾りなどの季節感ある作品や、利用者が描いた絵画などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者が希望される場所で過ごせるように談話室やテレビ前ソファー等の居場所づくりに配慮を行っております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム浅岸静福園 (西棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご本人、ご家族の意向、状況を考慮した上でベッ ドの位置を変更する等、安全に過ごして頂けるよ う努めております。また、ご家族のお写真やご本 人の好きなもの等の写真を飾って、居心地のよさ を感じられるよう配慮しております。	各居室には、ベッドやエアコンが備付けられ、利 用者は衣装ケースやイス、テレビ、家族写真、趣 味の作品などを持ち込んで、それぞれに居心地 の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアにはわかりやすい「トイレ」と表示 を行ったり、ご入居者それぞれの動線、生活習慣 に応じた環境整備を行う等のご支援を行っており ます。		